

藤 沢

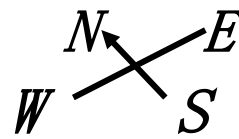
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2023年10月1日

第353号

主
な
記
事

- ・新型コロナ感染再び？
- ・気候危機どうする藤沢！・平和文化展感想
- ・PFAS とはどんな物質なのか
- ・関東大震災から 100 年 教訓を今後に

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ F A X 0466-87-4922

米軍基地横浜ノースドック

横浜ノースドックは、横浜みなとみらい地区の対岸にある瑞穂ふ頭（全 75ha、米軍は 55ha を占有）と神奈川区側の郵便地区からなっています。横浜市が建設（1945 竣工）してまもなく米軍に接收されました。そして現在まで米陸軍のアジア・太平洋域の兵站輸送の拠点となりました。このノースドックは、ベトナム戦争末期の 1972 年 8 月、相模総合補給廠から M48 戦車を積んだ車両を手前の村雨橋に市民の座り込みで輸送を止め、以後 100 日間にわたり封鎖したことがありました。市民の運動と村雨橋の耐荷重を超える車両の通行を許可しなかった横浜市長の姿勢が封鎖を可能としたのでしょう。横浜市は一貫してノースドックの全面返還を求めており、一部は返還されてきました。一方、基地としての役割は単に使用されない艦船の置き場となっていたようです。

状況が変化したのは、東シナ海における中国の領土問題など政情が変化したことによります。中国の動きに対抗し、情報戦が開始しました。具体的には中国の原子力潜水艦を監視するための音響探査船 5 隻がノースドックに配備されました。その他、種々の訓練にも使われだしました。自衛隊との共同演習も含まれ、不穏な動きが種々見られているといえます。

揚陸艇部隊の配備に反対する市民 ～ 9 月 10 日桜木町駅前広場で「Bye Bye ノースドック・パレード」の集会とパレードが約 500 人の参加で開催されました。ノースドックへの米軍揚陸艇部隊の配備の撤回と、早期全面返還を訴えました。ノースドックに揚陸艇部隊を編制配備することは、今年の 1 月 12 日、日米の外務・防衛担当閣僚による安全保障協議委員会（2 プラス 2）で初めて計画が示され、日本側はこれを受け入れました。神奈川県は同日、防衛省から説明を受けましたが、それは今年の春に **13 隻の揚陸艇と 280 人規模の常駐部隊を配備する**という内容でした。

この部隊の目的は、南西諸島などへ部隊や物資を迅速に輸送することです。この突然の知らせに、神奈川県・横浜市は戸惑いました。みなとみらいなど中心市街地であり、地元は早期返還を訴えていたのですから当然です。またこの配備は、基地の「固定化」につながり返還が困難となること、有事の際の攻撃対象となる可能性が強まりました。こんな危険な部隊を、神奈川にそして人口密集地に置くこと自体認めるわけにはいきませんと署名活動が進められています。

平和憲法をもつ日本の政府には毅然とした姿勢で米国と交渉し、ノースドックをはじめ神奈川県下すべての米軍基地返還を求めていきましょう。

(編集部)

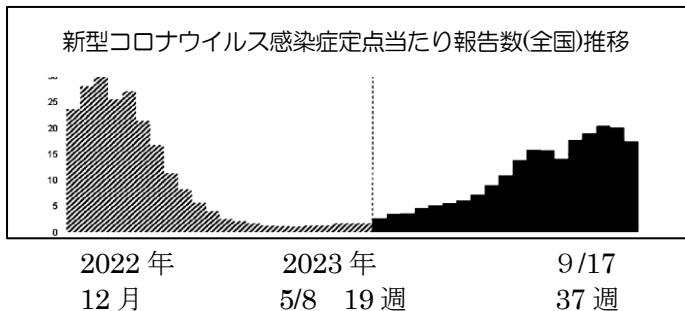


新型コロナ感染、再び？

感染症 5 類に移行した 5 月 8 日以後、新型コロナの感染状況の指標は定点報告数となりました。

藤沢市内の 16 病院から報告される 1 週間の患者数(平均値)です。最新の値として 16 人と 9 月 17 日に発表されました。

全国でも同様にデータが集められ、これを示したのが下図(厚生労働省 HP)です。5 月 8 日の週が第 19 週で以後、第 37 週までの推移を図右半分が示しています。藤沢市とよく一致し 8 月末までじわじわ増加し、9 月に入って少しだけ低下しています。図の左半分は 5 月 8 日以前です。定点から報告のあった数値を示しています。最近では 2022 年末の感染状況に近づいていることがわかり、現況は警戒が必要なレベルとなっていると考えます。



◆医療は、5 類移行でどう変化したか

新型コロナ感染症はこれまでも保険診療でしたが、窓口では無料でした。5 月 8 日から特例はあるものの、自己負担分が国庫支出から自己負担となり、さらに 10 月 1 日から中和抗体薬は自己負担なし、その他のコロナ治療薬は自己負担ありとなります。入院医療費も高額医療制度の限度額の減額が縮小されます。

◆検査薬・PCR がカギ

コロナ予防方法の基本は密を避けることに変わりはないが実際には困難です。感染予防と軽症化にワクチンの接種は重要。その点副反応などデメリットが強調され、ワクチン接種数が回を追うごとに減少しています。接種するかどうか冷静な判断が求められます。また治療薬が使用できるようになりました。

感染が疑われたら直ちにコロナ検査薬や PCR 検査を受けることが大切。早めの投薬で劇的に緩和するためです。そのためにも 1 人当たり 2 回の検査

薬の準備が推奨されていますが、無料配布など行政の対応が求められます。

(医療機関から聞き取り Y・S)

気候危機 どうする藤沢？！

9 月に入っても真夏日が続きました。秋の味覚を楽しむにしていた梨が暑さのために変質し売り物にならない。赤くならないリンゴが市場に出回っています。

気象庁は今年の夏の異常気象は温暖化がなければ起こりえないと発表。9 月の国連総会でグテーレス事務総長は「地球沸騰化時代」になったと「野心的な気候危機対策」を呼びかけました。科学雑誌「Nature」には気温がこれ以上上昇すると植物の光合成が止まり、植物が枯れていくという研究論文が掲載されました。

このような中で 11 月に COP28 が開催され、気候危機対策は「待ったなし!!」となっています。

地球が暖かくなっていることを、人々が気づき始めたのは 1970 年代後半から 1980 年代にかけてのこと。「地球温暖化」と呼ばれるこの現象の原因は人間の活動によって二酸化炭素などの温室効果ガスが増えたことによると分かってきたのは 1990 年代でした。気候専門家の 97%以上が地球温暖化は人類が引き起こしている現実の事象であると考えています。

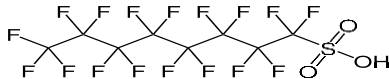
世界の科学者たちは数々の論文でこうなることを予測し、対策を急ぐ必要があると訴えてきました。

IPCC の 6 次にもわたる報告書は既に変動している気候に適応するため、今すぐ利用可能な低コストで効果的な選択肢(省エネと再エネ)は多数ある。しかし、数ある適応策は、そのみではある程度の助けにしかならず、緩和策として排出ガス(CO2)削減に向けた世界的な方針やしくみの運用をすべての地域で直ちに開始し、それらと組み合わせてこそ最大の効果を発揮すると政策決定者に向けられています。そして、政策決定者とは、政府だけではなく、地方自治体の職員や議員も含まれます。国民・市民から負託された政策決定者としての役目を果たして欲しいものです。同時に、国民はこれを支える行動が求められています。

とりわけ、未来を生きる若者たちを含め、地域で脱炭素社会に向けた政策策定に参加するしくみづくりは私たちの未来を作ること地方自治の本旨にかなうのではないでしょう。 (生物資源科学博士 宮地俊作)

PFAS とはどんな物質なのか 1

有機フッ素化合物の化学物質で、一説では1万種もあると言う。代表的なPFOSの構造を示すと、8個の炭素鎖にフッ素で置換され末端にスルホン酸基(-SO₃H)が付いた構造である。末端がカルボキシ基(-COOH)に代わるとPFOA。この2物質はペルフルオロアルキル化合物であるが、これにポリフルオロアルキル化合物も加え総称してPFASと言う。



PFOS ペルフルオロオクタンスルホン酸

炭素とフッ素の結合が強く、化学的に安定で、水や油をはじき、熱に強く、薬品にも強い性質を持っている。身近なところでは焦げつかないフライパン、揚げ物などの包装、撥水加工、そして軍事施設などで使用される泡消火剤に使用されてた。

危険性の認識

PFASが問題視されるきっかけは、PFOSが河川水や野生生物から高頻度・高濃度で検出されたことによる。2000年には米国企業スリーエムが自主的に製造中止を発表した。2002年にはOECD（経済協力開発機構）がPFOSのリスク評価を行った。その後、PFOAも加えた2物質は環境中での残留性、生物蓄積性、人や生物への毒性が高く、長距離移動性が懸念される物質と判定され、この2物質がその類似物質とともに相次いでPOPs条約（残留性有機汚染物質の廃絶・規制する）の規制対象物質となった。国内でもこれに連動して、PFOSは2010年に、PFOAは2021年にそれぞれその関連物質とともに化学物質審査規制法の第1種特定化学物質に指定され、製造も輸入も禁止された。なお、それ以外のPFASも、これから規制をされることが予定されているものもある。

今後の規制動向

上記の通り一部のPFASは、厳しく管理されるようになった。そのような規制物質については、全国的な調査も実施され汚染状況も明らかにされつつある。規制値や暫定的な指針値を超える汚染が、藤沢市でも懸念されることもわかってきた。現在、PFASについては、同族物質の「複数暴露」を管理する手法の確立が急がれている。まだ研究・試行段階ではあるが、注目していきましょう。

（菅谷芳雄）

関東大震災から100年 悲劇の教訓を今後

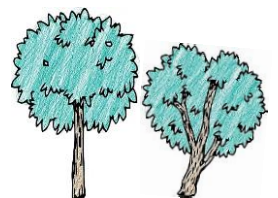
今から百年前、1923年9月1日、相模湾小田原沖付近を震源地とするマグニチュード7・9の大地震が発生し、東京・横浜を中心とする首都圏に大被害をもたらした。十数万棟の家屋が全壊し、丁度昼時という時間帯とも重なって大火災が発生、死者・行方不明者は、10万5千人に達したと言われている。地震による火災は3日間も続き、多くの人が焼死したのである。

しかし、こうした大火災の中でも木が茂っていた上野公園に逃げ込んだ人達は火事の類焼も木々に遮られ助かったとのことである。また、道路などでも、街路樹のある所は火事も木々にさえぎられ助かったとのことである。こうした教訓を忘れ、今、神宮外苑の木々を切りたおし、ラクビー場や高層ビルを建てようという計画が進められているが、都市に於いて、公園や街路樹などの木々がどれほど大切なものか、大震災の教訓を思い起こし伐採計画などは絶対やるべきことでは無い。

次に、震災の中でおきた朝鮮人や中国人、社会主義者などの虐殺の問題である。なぜこうした虐殺が起きたのか、事実を解明し、再発防止と関係者への謝罪とが求められている。事件は、「朝鮮人が暴動をおこしている」「井戸に毒を入れた」等の流言飛語が飛び交い、官憲から自警団を組織せよ、などの指示も出され、大震災という異常事態のもとで、一般市民も巻き込んだ自警団や在郷軍人、官憲などによって、数千人にも上る在日朝鮮人や中国人、さらに日本の社会主義者らが不当に殺害されたのである。

今年は震災100年と言うことで、日本各地で、再びこういうことが起こらないよう、追悼集会が開かれ、マスコミでも広く報道されたが、政府は虐殺について「調査したが、事実関係を把握できる記録が見当たらない」などと言って真相究明も謝罪も行おうとしない。また、東京都の小池知事も、1974年から続いていた追悼式典への都知事の追悼文の送付を、過去の問題として就任翌年

（次ページへつづく）



から止めてしまったのである。

真相究明こそ再発防止の最も大きな力になるのに、それを怠る政府や都知事の対応に今更ながら憤りを覚えるものである。と同時に、震災直後「事件は、対外的に徹底的に隠蔽するの外なし」と決定した当時の政府の対応と、今の政府の対応を比べてみても、都合の悪いことはひた隠すという隠蔽体質が100年たっても変わらないのかと思うと、なさけない気持ちでいっぱいである。

(小林 麻須男)

「ふじさわ平和文化展」見てきました…

会場に入るといちばんに目にとまったのは、真っ赤な曼殊沙華の油絵に感動。そして鵜沼海岸から江の島を撮影した写真は思わず足をとめてしまい、素人目にもかなり技術の高い作品だということとがわかり感動しました。また、巻物に描かれていた絵手紙、馬の絵はまるで生きているかと思える瞳、姿にうっとり。海老名香葉子さんの詩を書にした、友人の作品も味わいがあり心を打たれる作品でした。どの作品もどこの展覧会に出展しても引けを取らないレベルの高いものばかりで、素晴らしい芸術の秋を堪能しました。



このような展覧会に参加するたびに、信州上田にある「無言館」のことが思い出されます。出征のため、道半ばで絵筆を置かざるをえなかった画学生たちの無念が心にしみしました。

作品を作り上げる人の達成感、その作品を鑑賞する人、そしてその作品に感動をして自身に影響を受ける人。こんなささやかな平和があればこそ「夢」を持つことができると考えるのです。

「この平和」な時代が100年、200年先、その先にもずうーっと続くことを願わずにはいられなくなりました。「平和とは」を、またあらためて考える機会となりました。(C・M)

ECONET INFORMATION

▲第26回ふじさわ環境フェア

11月3日(金) 10:00-15:00

藤沢市民会館 第1・第2展示ホールほか
パネル展示 ワークショップ スタンプラリー、クイズラリーなど

主催 藤沢市ゼロカーボン推進担当
TEL0466-50-3529



▲『福島からあなたへ2023』

講師 武藤類子さん(福島原発告訴団団長)

11月11日(土) 14:00

会場：カトリック藤沢教会(藤沢駅 徒歩7分)

資料代：500円 学生は無料

主催：「福島からあなたへ2023」武藤類子さんのお話を聴く会：080-3217-0817 おかべ
mail：eshiftoiso@gmail.com

▲放射能を浴びたX年後Ⅲ

Silent Fallout (サイレント・フォールアウト)

乳歯が語る大気汚染 ドキュメンタリー映画上映

11月25日(土) 13:30- 参加費500円

市民会館第1展示ホール

主催：ピースリレー・ふじさわ 090-9239-0864

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 10月7日(土)10:00-六会公民館

《編集後記》スポーツの秋、芸術の秋。運動会や文化祭やお祭り、子ども達にいっぱい体験してほしい。コロナ禍で何もできなかった期間を取り戻そう！コロナワクチン開発に貢献したカタリン・カリコ女史らがノーベル生理学・医学賞を受賞する。メッセンジャーRNAを用い、たった1年でワクチンを開発できた。基礎研究が大事。目先の利益に繋がる研究や軍事目的の研究に助成金を出す国の政策は如何なものか。(A)